

三十八 白浜温泉

昭和十三年、和歌山県の白浜温泉に、七、八十日間滞在したことがあります。兄が英語の単語の綴り方の規則をつくっていたので、それを調べるために出かけたのでした。当時、全国の中学、高女、工業、商業、農学校など中等学校から二十校を選び、その学校で使っている英語の教科書に出ている単語、九千語くらいをまとめた本があつたのですが、この約九千語の単語の中で、兄がつくった綴り字の規則が、どの位効果があるかを調べるために出かけたのでした。綴り字の規則は少ないのですが、一つの規則でどのくらい効果があるか、一つひとつ、九千語を調べるのですから時間がかかり、長い間滞在したのでした。

温泉に行つてからどんな旅館に泊まるかと思つて探そうとしていると、どういふ人から教えてもらつたか忘れてしまつていますが、みどり館という旅館を教えてもらい、そこに世話になることにしたのでした。二十日ばかりして、調べた単語を清書してもらふ人がいるようになり、誰かに頼んでみようと思つたのでした。その時私の頭に浮かんだのは、その旅館に先生をしている人がおられるとみえていつも電話で「先生、々々」といふ言葉を使っているのを耳にしていたので、この人に頼んでみようと思つたのでした。それで早速女中さんに尋ねてみると、それはその旅館のご長男で、小学校に勤めておられるということでした。それまで私は旅館の人には別に用事もないし、一度もものを言つたことはないのです。私は